

11月22日（月）神戸町中央公民館において研修会を開催しました。

I 開会式

会長あいさつ

大野小学校 石原 明美

春の研修会で、子ども手当の趣旨について話をした。今、子ども手当を給食費の滞納にあてようという動きがある。徴収金担当である事務職員から、働きかけができるとうい。

平成23年度より指導要領が改訂され、教材の購入がすすんでいる。本校では、教務主任が指導書の一覧を持ってきた。T.T.や少人数指導、特別支援など何冊必要になるかを一緒に考えている。また、25日には外国語活動の発表があり、学校の中の一員として教員と一緒にもりあげていく必要がある。

標準的職務の一つ一つは事務職員一人でやっていけるものではなく、教員、保護者や地域と一体になってすすめていかなければならない。中心的な役割を事務職員が担い、スリム化、効率化を考えた実践をしていく必要がある。

来賓あいさつ

神戸町長 谷村 成基 様



神戸町は歴史と文化の町であり、国の重要文化財である日吉神社の門前町である。日吉神社は、8月25日の落雷により、屋根が焼けてしまい、現在修復中である。また、神戸町はバラの町であり、昭和45年の農業構造改善事業よりバラ作りをすすめている。現在、約550万本の出荷をしているが、外国産の安いバラの影響で経営は大変である。5月末には第19回バラサミットを行い、20市町村との交流事業があった。バラの他には、小松菜、ネギ、ハウレンソウが特産であり、学校給食センターでは週2回、6品目の地産地消をしている。また、役場のすぐ横には日々野五鳳記念美術館があり253点の書を収蔵している。

西濃教育事務所長 谷本 龍馬 様

事務職員にはいろいろな仕事があり、今まで、教員として、教頭として、校長として関わってきた。教員の時は正直よくわからなかった。教頭としては事務職員さんがいないと、たとえば財務をどうしていくかなど、学校が回らないことを実感した。校長としては、事務職員さんは、学校の流れを作っているということがわかった。施設管理や、生徒指導、部活動に参加したり、担任の悩みを聞いてくれるなど専門外でもいろいろな面で支えてもらった。様々な場面で学校管



理に参画し、それをPRすることに努めてほしい。たとえば、事務通信のプリントを作ったり、いろいろなレベルでの話し合いに参加するなどしてほしい。

全国レベルで共通した部分では、いじめなどの課題、地域や保護者のニーズの高まりがみられ、学校の教育力をさらに高める必要がある。事務職員として教育力の向上にどうかかわるかは、社会や地域・保護者の要請をうけとめ、質の高い貢献を求められている。管理職やミドル層との連携の在り方をさらに考えてほしい。

また、一人一人の教員の啓発をお願いしたい。県の財政の厳しさや、勧告でボーナスにしわ寄せがきている。どういう形で学校にお金が入ってくるかを、職員にわかるように啓発してほしい。

最後に、事務職員の単数配置の課題があり、克服の手立てを考える必要がある。先の職務内容一覧の通知は、職務内容のスタンスを理解してみんなですすめようという通知であったが、実際にはあまり変わっていないのでは。校長会やいろいろな場をお願いしながら、理解をすすめるようにする。新しいアイデアを活用して、協力してすすめてほしい。

西濃校長会長 大垣市立西中学校長 白鳥 正忠 様

年末調整や、次年度予算など事務が増える時期である。非常勤講師や市町村職員の雇用の増加や、ITの推進等の事務が増えている。教員も大変、事務職員も大変。学校は事務職員の力がないとすすまない。

これからの学校の課題を1点あげると、スリム化がある。勤務時間の管理を徹底しなければならなくなった。子どもに向き合う時間の確保が必要だが、解決するいい方法がなかなかみつからない。教員は、計画的に先を見通して事務をするのが苦手である。事務の効率化の観点で、意見や提言、ヒントを出していただきスリム化を進めてほしい。事務職員の力を是非学校経営に生かしてほしい。

II 大垣市事務職員会 研究発表

個から組織の力へ

～活かそうマネジメントの発想と連携で～

1 部研から担当会へ

大垣市では、総勢34名の事務職員で毎月1回の事務職員会を開催している。平成20年度までは、5つの実務研グループに分かれて研究活動を行ってきたが、次のような問題点が見られるようになってきた。

- ・組織内の高年齢化→中堅層や若年層が少ないため、地域でのOJTが系統的に行われない。
- ・受け身的な発想→消極的で誰かが決めてくれるだろうという考え方。できあがった手引き書を活用しきれていない。

事務職員は学校唯一の行政職であり、経験年数や各事務職員の意識の違いから不安をかかえたまま自分の流儀で仕事をこなしていることも多い。ちょっとした情報でも交換し合い、みんなが対等に話のできる組織でありたいという願いから、事務職員が組織として力をつけていけば、学校事務職員全体の存在意義につながるのではないかと。個人と組織がともにスキルアップを目指し固定概念から脱却するために21年度から

は名称を担当会と変え、担当者・研究会という2本だてで組織の活動をスタートした。

2 研修のかたち

(1) 担当者

21年度は、情報担当、県関係担当、市関係担当、生き生き担当という4つの担当会で、学校事務職員に必要とされる事柄を調査、整理、統一をしながら効率化していくための研究活動を行った。



(2) 研究会

担当者と並行して全体のレベルアップを核とする研究会を進めていくために、一人一人の発想転換が必要ではないかと考えた。誰もが自分の思い、意見を他に反映させることができるようになるために「各校の事務職員」と「事務研の組織」が互いにマネジメント的発想を活用して研修し、体得、実行することで力をつけられると考え、【学校組織マネジメント研修】を全員で受講した。

研修後、自分自身や自分の学校に関して、日常感じている問題点と解決策を持ち寄り、各グループで意見交流を行い、異なった視点での課題解決の糸口を見つけていった。次に、組織マネジメントの一部分を財務という切り口から見るという意図で、財務マネジメント研修を行い、自校の課題に対して事務職員としてどんな能力が必要か？どのように取り組むことができるのか？具体的な実践内容を考え整理した。同じ課題を別のグループが話し合うということも行い、自分たちのグループとは違う課題や解決策を共有し合うことで、さらに新しい手立てを見つけることができた。

マネジメント研修を繰り返し行っていくことで、一人一人の事務職員としての意識が少しずつ変わり、協働、連携の体制が、組織の活性化につながっていくと考える。

3 組織内での連携

22年度は、大垣市標準的職務内容案を意識し担当会の活動内容に関し、課題をもって話し合い、活動の成果を組織全体のものとしていくこと、さらに大垣市の教育のために、情報の発信、提案を行っていきたいと考えた。マネジメント研修を繰り返し行うことにより、組織みんなのためにという発想で組織全体に関わる活動につなげていきたいという思いをもって話し合い担当会の計画を立て実践していった。

(例) 市関係担当者

子どもたちや保護者への支援を考え、関係を分かりやすくするためマップの作成、学籍・就学・教育環境を保護者や教員に説明するためのリーフレットの作成。

4 組織の外での連携 大垣市標準的職務内容についての取り組み

大垣市標準的職務内容案の作成や市教委への働きかけについては、生き生き担当が中心となり、学校経営参画のため、事務職員の地位向上のために行ってきた。一人では実現できないことも組織としてまとまると大きな力となる。その組織の力を生かして活動した結果、教育委員会、校長会、事務職員会が、大垣市の教育のために、標準的職務内容を基本に持った部分での話し合いが大切であり、組織を超えて連携を進め

ることを目的に定期的に三組織の懇談を持つことになった。

5 成果と課題

学校をとりまく環境、事務職員を取り巻く状況がどんどん変化している今、私たち事務職員が子どもたちのためにできることは何なのか。『事務は事務』という意識を変え、「一緒にやってみよう」「うまくいったら次は何をしよう」と、前向きな姿勢をもって組織を活性化し、その組織の中で仲間と共有した知識・意欲・連帯感を強みとして、各校で実践するための支えになったときに、仲間、組織の大切さに気づくことができれば大きな成果ではないか。

各担当会の活動を生かし、担当会同士がどう連動していけるかが、今後の課題である。この取り組みが、校長会、教頭会、学校間へと広がれば、また新しい組織の連携を作り出せるのではないか。大垣市事務職員会は、つなぐ役割を果たせるよう今後も前向きに研究していきたい。

【指導・講評】

西濃教育事務所 課長補佐 後藤 秀太郎 様



今までの固定概念からの脱却を試みたこと。部研から担当会に名前を変えただけでなく、中味を検討したこと。年齢構成のアンバランスと受け身的な発想から、一人一人が主体的に参加していくための基盤づくりとして工夫されたすばらしさがあった。全体のレベルアップを核とする研究会を位置づけて、組織の活性化を図るためのマネジメント研修を通して意識と実務の両面から事務職員としての資質向上に努めようとしたよさが1つめである。

2つめに、各担当会の内容に対して全体で目を向けて関わるという発想を重視したこと。所属する以外の担当会の内容にも意見を述べることで、組織としての方向性を意識して関わっていく。そういった達成感が満足感にもつながっていったのではないか。

3つめに、【大垣市標準的職務内容】についての取り組みが、各校でばらつきのある事務職員の領域について校務分掌上その枠組みを明らかにするという点からも大変重要なものである。アンケートを行い、修正を加えながら大垣市独自の夢づくり21事業に関することなどを盛り込んだ大垣市バージョンを作成された。さらに大垣市の子ども達のためにという共通の願いのもとに、校長会・市教委・事務職員会との三組織との懇談会が実現した。共通理解を行い、運営委員会への参画や学校間連携のあり方について検討している。進めるにあたって賛否両論あることはいうまでもないが、学校経営参画への一手段として前向きに考えておられることに心から拍手を送りたい。

さらによりよいものにするには、マップとかリーフレットとか作成途中のものを一定の形あるものに改善を図っていくことが必要であり、担当会相互の連動を持たせていくことが大切である。もうひとつは、標準的職務内容の建設的な運用と経営参画意識の高揚をさらに図り、合わせて三組織との充実を一層図っていただければと思う。

Ⅲ 実践発表 事務部経営案について

養老町立笠郷小学校 伊藤 卓さん

事務部経営案を作ってから自己啓発シートを作っています。昨年度の自己啓発シートの反省と今年度の校長先生の経営方針を見ながら今年どのような取り組みを行うかを考えて作成しています。自己啓発シートは事務経営案のサポートシートとして活用しています。このような作り方をしますと、学校の経営方針を昨年度と今年度とで見直すことができます。

財務に関して、消耗品早見表と購入伺い書を作成しています。消耗品を探す時間の無駄をなくすためには、保管場所の情報を共有すれば良いと思い、作成しました。これにより、職員の意識もプラスに変わり、職員間の共通理解につながりました。

揖斐川町立清水小学校 渡辺 圭子さん

前任校では、郡全体で研究することにより、事務部経営案を学級経営案と一緒に学校教育計画の中に入れて校内の学級経営案として作成していました。昨年10月に県から事務職員の標準的職務内容が出されたため、事務部経営案を見直し、変更・修正しました。

現在、事務引き継ぎ簿の作成を進めています。事務部経営案は一人で行っているのではなく、学校は組織であることに着目しました。総務・財務は、学校の実情に応じた組織を意識していきたいと思います。

Ⅳ 諸連絡

〈情報担当委員会〉

委員長 宮地小学校 前川 美由紀さん

サーバーの容量が2メガから10メガの5倍に増え、容量のスペースが余っている状況です。資料室に各都市の発表されたデータがあれば、順次、入れて蓄積していくように考えています。研究のデータをアップしたいものを、送ってください。

各都市研究会の日程を入力してください。

〈県事務研〉

理事代理 高田中学校 杉山 誠人さん

夏季研修会、75%の参加率でした。初めての1日日程だったこともあり、内容についても好評でした。来年度は各務原市の文化ホールで8月18日に開催する予定です。

事務の日の企画に関するアンケートが県事研のホームページに載っていますので、確認をお願いします。

財務ウイークの実践の募集が来ていますので、実践者は記録の報告をお願いします。

全事研セミナーの募集が届きましたので、参加希望者は各都市会長を通して申し込みをお願いします。また、東海大会名古屋大会の追加募集を11月30日まで延長されましたので、希望者は申し込みをしてください。

県事研のアンケートは、必ずホームページにアクセスして答えてください。今後の研究実践に役立ってます。

〈県事務研総務部〉

上石津中学校 若山 優子さん

総務部だよりをホームページに作りましたので確認をお願いします。

来年度の会誌の表紙を募集していますので、良い作品があれば連絡してください。

〈県事務研研修部〉

南中学校 羽田 博美さん

研修部の活動の夏季研修、マネジメント研修、パソコン研修が終わりました。現在研修部では、来年度に向けて、研修計画の作成に取り組んでいます。みなさんの意見を取り入れて、研修計画を作成していきたいと思います。

〈県事務研研究部〉

南濃中学校 小川 茂樹さん

夏季研の時に話しました第四次研究構想、学校事務ビジョン、フローチャート課題別マニュアルについてみなさんのご意見をいただきたく、アンケートを実施させていただきますので、今月末までに回答ください。

V 研究推進委員会 - 財務マネジメント研修 -

長期研修計画2年目の今年度は、昨年度発表した研究推進委員会としてのめざす姿、「学校の教育目標具現に向け役割を果たす事務職員」の実現のため、3つの力（実務力・人間力・対応力）を高めて事務職員としての資質向上を図る研修を企画しました。

今年度は具体的目標を、学校の教育目標を事務職員の専門性が発揮できる財務経理の面から具現しようと、「教育活動の裏付けとなる予算の執行に関わるものとして、学校運営に積極的に参画する」としました。

具体的な方策として、

①教育活動の把握

校内の行事や教科カリキュラムなど教育活動を把握し、予算の立案や執行ができる。

②職員への情報提供

職員に対して予算の内容説明・執行計画・予算要望・備品購入計画・備品の活用や紹介などを情報提供し、予算に対する指導助言・連絡調整を行う。

③費用対効果の検証

購入した備品、消耗品の活用状況を調べ、効果の検証をする。

以上3点を具体的方策としました。このサイクルで事務を行うことで、専門性を発揮して学校運営に参画していくことができると考えています。教育活動の裏付けとなる財務の視点から学校全体を見渡し、子どもたちの育ちを支援することができる力量アップを目指したいという願いから、「財務マネジメント研修」を計画しました。

「学校財務マネジメント - 目指せ 財務のエキスパート - 」



全国公立小中学校事務職員研究会 副会長 横山 泉 様

学校組織マネジメントとは、1人でなく周囲を巻き込んでいき、教員、事務、養護教諭等いろいろな立場の人の意見を聞き、組織としての解決策を導く「組織の知恵」を生みだしていくことです。それが、学校経営力の向上・強化に繋がり、子どもたちの「生きる力」の育成に繋がっていきます。学校財務マネジメントは学校

組織マネジメントの中の1つで、学校組織を「人体」にたとえると、学校財務は「血液」のようなものです。

学校財務の望ましい制度は、学校の事業に合わせた流動性のある執行（総額裁量制）です。予算の範囲内で、学校で自由に執行できます。しかし、予算を減らされやすく、新しい事業を行う際、予算の確保が難しいといったデメリットもあります。財務運営にかかる具体策の1つは、基本的規範を厳守した中での予算執行ができるかどうかです。予算に関する意識の変革を図ったり、予算配当の増加と獲得手段の工夫をしたり、保護者・地域等との連携で収入の確保をしたりと事務職員の専門性が発揮されます。財務運営が十分機能している学校の校長先生に、「事務職員にどんな研修が必要か」を尋ねると、企画参画能力やコミュニケーション能力を高める研修が必要と答えられます。

教育課程と学校財務をリンクさせ、自ら編成した教育課程を実施するため、学校の予算をコーディネートし、財務を通じて教育課程を支えていく実践をしています。具体的には、校内財務研修を実施して、水道料金から年間1人の使用料を500mlペットボトルにして1日1人100本など、ものさしを作って数値化し職員に関心を持ってもらったり、校内予算委員会で行事ごとの歳入歳出を一覧表にして、無駄を省く事業仕分けのようなことをやっています。

学校財務マネジメントの実践は、目標・ビジョンを定め、現状分析を行い、そこで見えてきた課題に対して意欲的に取り組むPDCAサイクルです。1人で取り組むのではなく、周囲を巻き込んでいくことが大切です。「子どもたちのために」を合言葉に、意欲を持って自ら進んでやる攻めの姿勢でがんばります。

その後のグループワークでは、地域も年齢層もバラバラの5～6名のグループに分かれ、今抱えている自校の一番の課題をみつけ、その課題について、何をどのように取り組んだら課題解決に繋がるかを話し合いました。自分では気がつかないような意見を聞いたり、他校の実践が参考になったりと充実のグループワークとなりました。

最後に、グループで出た意見をヒントに、課題解決のために取り組む決意表明をし、明日からの仕事に生かしていこうと話し合いました。

学校財務に携わることは、学校の根幹部分を担っているという自覚を持ち職務にあたる必要があります。現状を振りかえって分析をし、みえてきた課題を解決するために人を巻き込んで目標を達成することが大切です。対応力に重点を置いた研修となりました。